令和 7 年度 授業評価アンケートに基づく自己点検・評価

健康・医療データサイエンス教育プログラム（文科省認定　リテラシーレベル）

1. 令和 7 年度の実施状況と評価方法

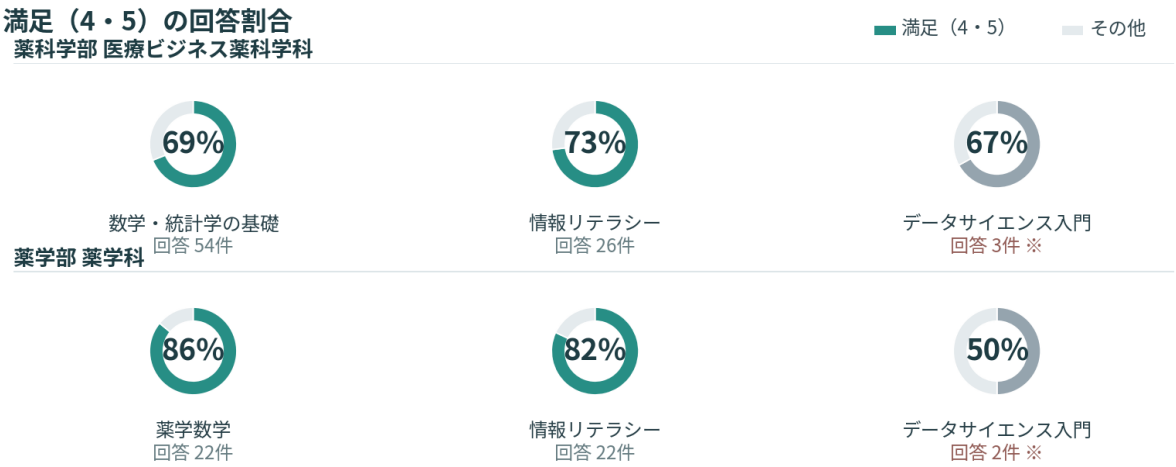
令和 7 年度は学部改組により、薬学部薬学科と薬科学部医療ビジネス薬科学科（お茶の水・さいたまキャンパス）の区分で点検した。令和 6 年度に統一した「データサイエンス入門」は全学共通科目として継続し、1〜4 年次のいずれでも選択履修できる。

オンデマンドで学生同士のグループワークを進めることが難しいとの意見を受け、薬科学部では教員が一部対面で支援した。履修年次が異なる学生を一律にプログラム修了後に評価することは難しいため、令和 6 年度に引き続き各構成科目の授業評価アンケートを用いて点検した。

2. 授業評価アンケート結果

学部・学科	科目	回答件数	満足度	わかりやすさ	理解度	満足（4・5）
薬科学部 医療ビジネス薬科学科	数学・統計学の基礎	54	4.00	3.94	3.81	69%
	情報リテラシー	26	4.19	4.23	3.96	73%
	データサイエンス入門	3	3.67	3.33	3.33	67% ※
薬学部 薬学科	薬学数学	22	4.36	4.36	3.91	86%
	情報リテラシー	22	4.32	4.41	4.55	82%
	データサイエンス入門	2	3.00	3.50	3.00	50% ※

注：いずれも 5 段階評価。回答件数は科目別の延べ回答数（薬科学部 83 件・薬学部 46 件、合計 129 件）である。満足（4・5）は満足度設問で 4 または 5 を選んだ割合。※5 件以下の数値は少数回答の参考値。



参考：構成 3 科目の延べ回答による満足度平均は薬科学部 4.05、薬学部 4.28。これは科目別回答の加重平均である。

集計上の留意点：薬学部の「情報リテラシー」は前期、その他は後期の調査による。

3. 自己点検・評価（令和 6 年度からの継続）

・学部改組後の区分に沿って構成科目を点検した。共通科目「データサイエンス入門」の履修年次の柔軟性を維持し、薬科学部ではオンデマンドでのグループワークを支えるため、一部対面での教員支援を取り入れた。授業運営上の改善として位置づけ、効果は今後の評価で確認する。

・数学・情報リテラシー系 4 科目の満足度は 4.00〜4.36 で、回答者からは概ね肯定的な評価が得られた。一方、薬科学部の「数学・統計学の基礎」では進度（13 件）や授業構成（9 件）に改善を求める回答があり、キャンパス別の満足度もお茶の水 4.23（31 件）、さいたま 3.70（23 件）と違いがみられた。

・薬学部では「薬学数学」で演習問題の解説、「情報リテラシー」で説明の速度に改善を求める意見があった。授業内容を肯定する自由記述と併せて、学びやすさの観点から継続して点検する必要がある。

・「データサイエンス入門」は全学で回答 5 件（薬科学部 3 件、薬学部 2 件）、満足度の平均は 3.40 であった。令和 6 年度の 14 件（平均 2.57）より平均値は高いが、回答数や回答者構成が異なるため、効果は令和 8 年度で再確認する。

・構成科目の延べ回答は令和 6 年度 222 件から令和 7 年度 129 件となり、特に薬学部は 147 件から 46 件となった。原因について検討する必要がある。

4. 次年度に向けた改善方針

・データサイエンス入門（令和 8 年度）：担当教員が変更となる予定で、授業全体の難易度を調整し、Python によるプログラミングから R を用いたデータ処理へ学修内容を見直す。基礎から段階的に学び、データを扱う力につながる授業構成を目指す。

・学修支援：オンデマンドでのグループワークの進め方を見直し、グループワークをとりやめ、課題への取り組みやすさと理解の状況を継続して確認する。

・数学・情報系科目：授業の進度や説明方法、演習の解説を点検し、キャンパスごとに寄せられた意見も改善の参考とする。

・評価方法：科目別評価を継続し、履修者数とアンケート回答数・回答率を把握する。履修年次の違いに配慮しながら、プログラム修了時の学修状況を確認できる方法も検討する。

5. 総合所見

令和 7 年度は学部改組後の体制で教育プログラムを継続し、オンデマンドでのグループワークに対して薬科学部で一部対面支援を取り入れた。数学・情報リテラシー系科目には概ね肯定的な回答がみられた。一方、「データサイエンス入門」は回答 5 件であり、授業改善の効果を判断するには、引き続き評価結果を蓄積する必要がある。

令和 8 年度は担当教員の変更に合わせて難易度を調整し、Python によるプログラミングから R を用いたデータ処理へ内容を見直す。今後も、初学者が基礎を段階的に身に付け、健康・医療分野のデータ活用への理解を深められるよう、授業方法と学修支援を工夫し、その状況を科目別評価等で継続して点検する。